

## 演題:「デジタル義歯の現状と課題」～150 症例の経験から～

日本有床義歯学会副会長  
富山県やまざき歯科医院  
院長 山崎史晃

昨今、補綴のデジタル化が進み、義歯のデジタル化が注目を集めています。しかし、これまでのデジタル義歯は、精度が低い・低品質・造形が安定しないなど効率的ではなく、日常臨床に用いることに不安があるのではないのでしょうか？ 私の医院でも、デジタル義歯を取り組んできましたが、スキャニングが上手くできない・プログラム中にエラーが起きてデザインが完了できない・造形できないなどさまざまな困難がありました。試行錯誤すること 5 年。昨今、これらの問題をやっと解決することができるようになりました。

その結果得られたことは、

- 粘膜面と咬合の著しく高い再現性
- 従来の 1/4 程に短縮された義歯製作の作業効率・患者さんの高い満足と調整回数の減少

今回の講演では、石膏模型製作・蠟義歯の製作・埋没重合という従来の工程を行わず、効率的に製作できるデジタル義歯について、私の 150 症例の経験に基づいてお話ししたい。